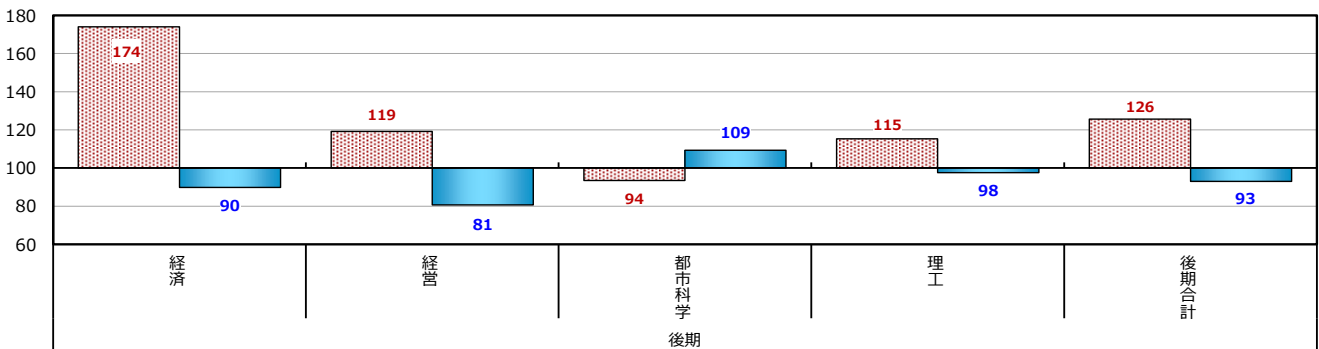
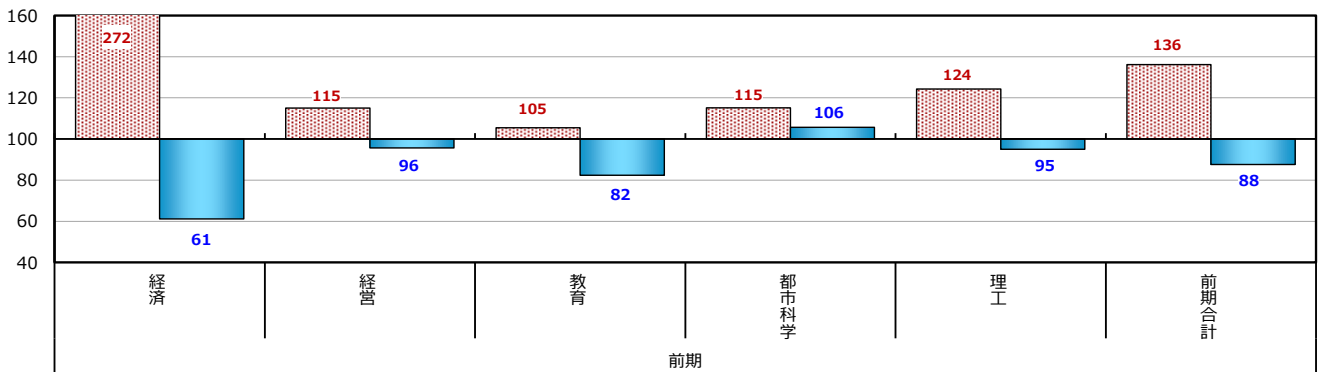


横浜国立大：前期は減少、後期はやや減少だが 2021 年度比ではいずれも激増 前期：-480 人 後期：-394 人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2023年度/2022年度 ■ 2024年度/2023年度



主な入試変更点 選抜方法：第1段階選抜新規実施 都市科学(都市社会共生)<後>…選抜基準約10倍
 第1段階選抜基準変更 経営<後>…約8倍→約10倍
 第2志望廃止 都市科学(建築、都市基盤)<前><後>…出願時に他方の学科を第2志望とできる
 →1つの学科しか志望できない

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2年連続大幅増加の反動で874人(91)減少。しかし、コロナ禍対策として概ね個別試験実施なしとなった影響で前年度比45%減少した2021年度入試との比較では、4,408人(205)増加で倍増以上。日程別では、2年連続大幅増加の反動で前期は480人(88)の減少、後期は394人(93)のやや減少。いずれも、2021年度対比では、前期は1,527人(182)の激増、後期も2,881人(224)の増加で2.2倍増以上。

<前期日程>

- 経済(61)**は、前年度約2.7倍増の反動で大幅減少。志願倍率も6.3倍→3.8倍にダウン。募集単位別では、3つの募集単位全てが減少。(経済/LBEEP)(41)は前年度約2.3倍増の反動で半減以下。(経済/一般)(59)は前年度約2.6倍増の反動で大幅減少。一方で、人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経済/DSEP)(97)は前年度5倍増以上だったが、わずか2人の減少に留まった。
- 経営(96)**は、3年連続大幅増加の反動は小さく、やや減少。志願倍率は5.1倍で2年連続5倍を上回った。募集単位別では、(経済/一般)(96)は3年連続増加の反動は小さくやや減少、人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経営/DSEP)(97)は2年連続激増の反動は小さくやや減少。
- 教育(82)**は、学部全体では2年連続増加の反動で大幅減少。募集単位別では、増加が4募集単位、減少が3募集単位。増加した募集単位では、特に(学校教員養成/芸術・身体・発達支援系教育-美術)(133)、(学校教員養成/芸術・身体・発達支援系教育-特別支援教育)(127)、(学校教員養成/芸術・身体・発達支援系教育-音楽)(117)は募集人員が少ないこともあって大幅な増加率となった。一方で、減少した募集単位はすべて大幅減少で、特に(学校教員養成/芸術・身体・発達支援系教育-心理学)(57)は減少率40%以上だった。
- 都市科学(106)**は、2年連続大幅増加に引き続きやや増加。学科別では、(都市基盤)(167)は激増で3年連続増加。(建築)(108)も3年連続増加。(環境リスク共生)(103)はやや増加で2年連続増加、一方で、(都市社会共生)(81)は大幅減少で2年連続減少。
- 理工(95)**は、2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。学科・教育グループ(EP)別では、9募集単位中5募集単位が減少。減少した募集単位は4募集単位が大幅減少。特に、(数物・電子情報系/物理工学)(57)、(化学・生命系/バイオ)(74)はいずれも2年連続大幅増加の反動で減少率25%以上の大幅減少。一方で、データサイエンスで注目を集めている系統の(数物・電子情報系/数理科学)(166)は激増で3年連続増加、(数物・電子情報系/情報工学)(138)は3年連続大幅増加。

<後期日程>

- 経済(90)**は、2年連続激増の反動は小さく減少率10%の減少に留まった。経済(経済/一般)(86)は2年連続激増の反動で減少。人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経済/DSEP)(93)は前年度約2.5倍増の反動は小さくやや減少に留まり、志願倍率も10倍以上を維持。一方で、新設2年目の(経済/LBEEP)(161)は激増。
- 経営(81)**は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。人気の高い「情報処理・統計分析能力の育成」を謳っている(経営/DSEP)(77)

は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。(経済／一般)(81)も2年連続大幅増加の反動で大幅減少。

- 都市科学(109)**は、前年度やや減少の反動で増加。学科別では、4学科中3学科が増加。(環境リスク共生)(183)は前年度約2.7倍増に引き続き激増。(都市基盤)(131)は大幅増加で3年連続増加。(都市社会共生)(118)は前年度激減の反動で大幅増加。一方で、(建築)(83)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 理工(98)**は、2年連続大幅増加の反動はなく前年度並。学科・教育プログラム(EP)別では、9募集単位中5募集単位が減少。減少した募集単位では、(化学・生命系／バイオ)(40)は2年連続倍以上の反動で激減。(数物・電子情報系／電子情報システム)(83)と(数物・電子情報系／物理工学)(84)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。一方で、(機械・材料・海洋系／材料工学)(146)は3年連続大幅増加、(化学・生命系／化学・化学応用)(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。